

しんぶん
赤旗

日刊 ●月 3497円
日曜版 ●月 930円

南地域後援会は本町・寿・緑・若松・栄・白山・船戸・新田がエリア

連絡をいただければ「しんぶん赤旗」の見本を届けます



しらかば

日本共産党我孫子南地域後援会
発行責任者 木村 文次

我孫子駅ホームのエレベーターが完成しました

4月26日に6・7番線ホームのエレベーターが稼働を開始し、我孫子駅に4つあるホームのエレベーター新設工事が全て完了しました。

工事は2020年12月に着工し、去年12月に8番線ホーム、今年2月に1・2番線、4月12日に4・5番線ホームが完成していました。

エレベーター新設実現にあたっては8年の月日がかかっています。「車いすでホームに行けるエレベーターを」「ベビーカーで安全に乗り降りできるような」など高齢者、車いす、ベビーカー利用者の声がたくさん寄せられました。通勤時間帯にエスカレーターを止めて駅員が車いすを補助し



エレベーター前の野村議員



安全で安心できる駅の実現を求め、日本共産党市議団と市民によるねばり強い運動を続け、これまでに700を超える署名を集めています。



栄・バラのお宅の庭

8年前の野村議員が初当選した市議選では「我

孫子駅ホームのエレベーターを」の公約を掲げました。当選後も、国交省やJR東日本に何度も市民の切実な声を訴えてきました。

「安全で使いやすい駅に」との市民の願いをようやく実現することができました。党市議団は今後も市民の声に応えるために全力をつくします」

またトイレも2021年に段差をなくするなどバリアフリー化されました。来年には6・8番線のホームドア工事が予定されています。

「安全で使いやすい駅に」との市民の願いをようやく実現することができました。党市議団は今後も市民の声に応えるために全力をつくします」

「ABISION SUGAR GARDEN」5月16日(火)グランドオープン5月16日付広報「あびこ」一面記事。公園坂通り施設活用事業としてオープンした4店舗複合型飲食施設。

開店と閉店

クリーニング店・療養型病院など。理由として設備の老朽化・燃料費高騰・後継者不在・健康上の理由で事業継続困難などかもしれないが、やはりコロナの影響が大きいことも。自分が世話になった施設が閉店・閉院するのは寂しいかぎりではあるが、やはり最後に送る言葉は「お疲れ様でした。ありがとうございました」

お知らせ
5月13日に予定していた湖北、散策は、雨天のため延期としました。日程を調整し、改めてお知らせします。

日本共産党我孫子市議団のホームページのサイトは <https://jcp-abiko.com/> です。スマホのQRコードはこちらから。→

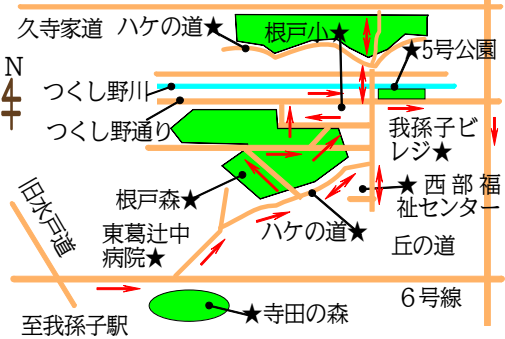


今年の夏は7月15・16日に白山八坂神社の祭礼が復活します。コロナ禍で中止が続き、4年ぶりです。八坂神社の由来は疫病・疫虫害の守神で、現代と通じるものがあります▼夏の風物詩、手賀沼花火大会も8月5日に復活します。我孫子・沼南・柏そして遠くには江戸川の花火が同時に見物でき、水中花火の迫力は必見です▼コロナは終息したわけではありません。充分注意しつつ楽しみたいと思います▼今年4月には我孫子駅ホームのエレベーターの完成、そして老朽化したクリーンセンターが新設されました。落ち葉や雑草の分別が可燃ごみとなり、しばらく剪定枝木の日に出不着でしたがそれは最近なくなりまし

オオバン

(栄 I)

我孫子古道巡り 2063 根戸・久寺家のハケの道



と「西部福祉センター」で



根戸森とハケの道

今回は、根戸と久寺家のハケの道を巡ります。
根戸交差点から出発します。6号線を東に向かい「東葛辻中病院」の先の坂を下ります。この辺りは根戸に属します。
二又の道を右に入ると細い道になり、「根戸森」に沿ったハケの道の景色が堪能できます。

突き当りの道を南に入ると「西部福祉センター」で

社会福祉協議会が我孫子市から委託され、管理・運営しています。レクリエーション設備があり、私の母も生前お世話になりました。



根戸小

ハケの道を戻り、ベンチの前の小道を上り森に入ります。東へ北へと散策すると「根戸小」の南側に出て、校庭が見えてきます。



根戸森

根戸小前を東に進み、つくし野川を渡るとこの辺りはつくし野5丁目です。つくし野川沿いにハケの道が続き、ポンプ場のそばの小道を上ると斜面林側は久寺家で、昔

「つくし野」は、昭和50年に東急不動産による宅地造成に伴い、造成地内の大字・字区域を「つくし野」

なごらの景色が見られ、道を抜けると急に開けて久寺家道(布施道)に出ます。



久寺家道につながる小道

久寺家のハケの道



久寺家のハケの道

参考文献「我孫子の地名と歴史」 「我孫子のいろいろ八景歩き」

地下鉄用だった103系1000番台を最初に快速に配転した際は、快速または元各駅停車用の103系の先頭車がそれぞれ別種の車両を挟む編成でした。

103系1000番台の大部分は地方のローカル線として転出しましたが、一部は常磐線に残り、快速線でも運用されました。各駅停車から快速への「異動」は「栄転」に見えますが、実際は老朽化してきた快速103系を置き換えたけれど、国鉄末期の苦しい頃で新車を投入できる状況でなく、やむなく各駅停車でお役御免となった103系1000番台が、快速線でも第二の勤めを果たす事態となりました。

しかも快速103系を置き換えたのは各駅停車用の103系1000番台だけではありませんでした。当時、中央線快速に投入されていた新型車両を大阪地区にも投入により置き換えられた103系その他、山手線や京浜東北線からも103系が転入してきました。

常磐線あれこれ 29

しらかば文芸欄 11 川柳・寿 佐藤権兵衛

アラートで脅かし日本どうするの
NHKに政府の犬が闊歩する
戦争へ距離を縮める岸田さん
現実が憲法に追い付けず

また快速転用直後の元各駅停車の車両は未だ塗装変更前の状態でしたので、暫くの間は快速(エメラルドグリーン)と各駅停車(灰色)の混結編成が見られました。そのため塗装変更前の元各駅停車の車両が先頭で運用するときは、誤乗防止のため、前面に「常磐線(快速)」のステッカーが貼られました(次号へ続く)
(緑竹内)



「紫陽花」

若松・高橋祥子



103系1000番台(中間)快速



103系1000番台(先頭)快速